

新型コロナウイルス感染症患者の 濃厚接触者を何日間健康観察すべきか？

～港区みなと保健所の積極的疫学調査からわかったこと～

新型コロナウイルス感染症患者の同一住所を持つ住民における
健康観察期間の妥当性に関する研究

港区みなと保健所 松本加代 佐藤寿彦 舟木素子 堀成美
国立大学法人千葉大学総合安全衛生管理機構 潤間 励子
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 石金正裕

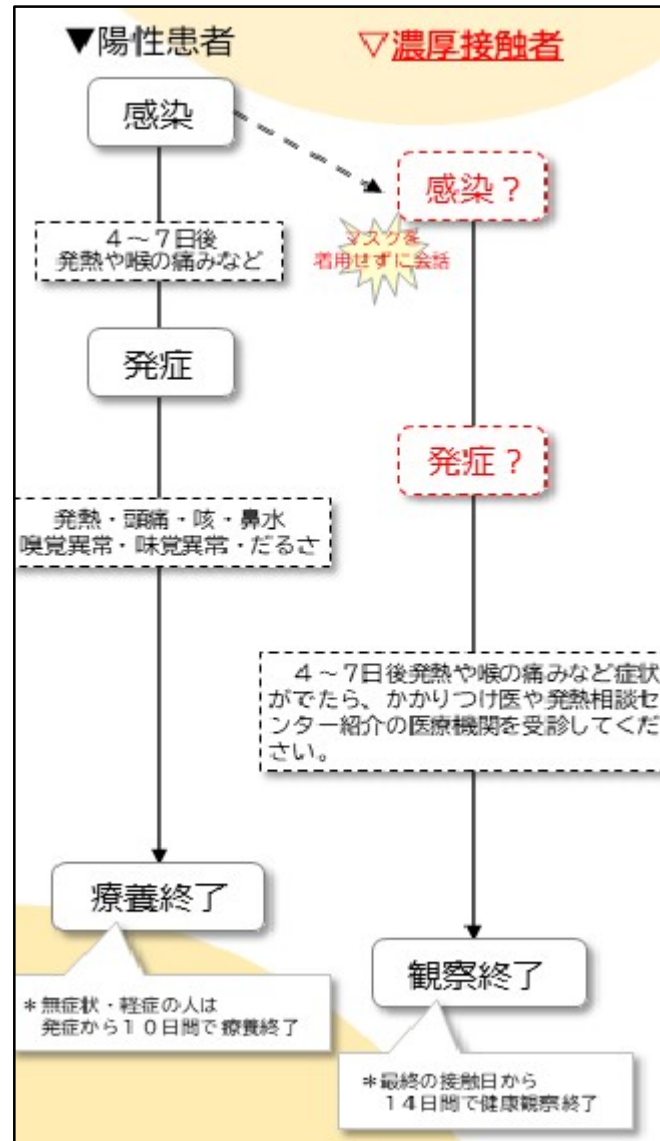
濃厚接触者の健康観察とは？

●濃厚接触者

- 感染者と感染リスクがある時期に接触しており、感染・発症する可能性がある人

●なんのために健康観察するのか？

- 他の人との接触を避け、体調の変化をモニタリングすることにより、感染拡大を止め、早期の対応を可能にするため



COVID-19患者の濃厚接触者の健康観察における課題

●背景

- 新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）は、感染症のまん延防止のため、感染症法第15条の積極的疫学調査による濃厚接触者を特定し、COVID-19陽性者と最終接触後14日を健康観察期間をとして、行動制限を要請している。
- COVID-19患者本人については、発症日（無症状病原体保有者においては、検査日）より10日で、退院または宿泊・自宅療養解除となっている。一方、濃厚接触者の行動制限は最終接触後14日間であり、患者本人よりも長い。また、流行下においては多数の濃厚接触者が特定されることが想定され、社会生活への影響も大きい。そのため、濃厚接触者の健康観察期間の短縮が可能となれば、社会的影響も軽減され、保健所業務の効率化にもつながる。
- COVID-19についての隔離期間の推奨は国によって異なっており、米国疾病予防管理センター（CDC）は昨年12月10日、7日間（隔離中止前48時間以内の検体で検査陰性確認をした場合）または10日間の選択肢を提示した。

COVID-19

CASES ARE RISING.
ACT NOW!



WEAR A MASK



STAY 6 FEET APART



AVOID CROWDS

Your Health ▾ Community, Work & School ▾ Healthcare Workers & Labs ▾ Health Depts ▾ Cases & Data ▾ More ▾

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/more/scientific-brief-options-to-reduce-quarantine.html>

🏠 More Resources

CDC in Action +

Global COVID-19 +

Science & Research -

Science Briefs -

MORE RESOURCES

Options to Reduce Quarantine for Contacts of Persons with SARS-CoV-2 Infection Using Symptom Monitoring and Diagnostic Testing

Updated Dec. 2, 2020 Languages ▾ Print



【解説】

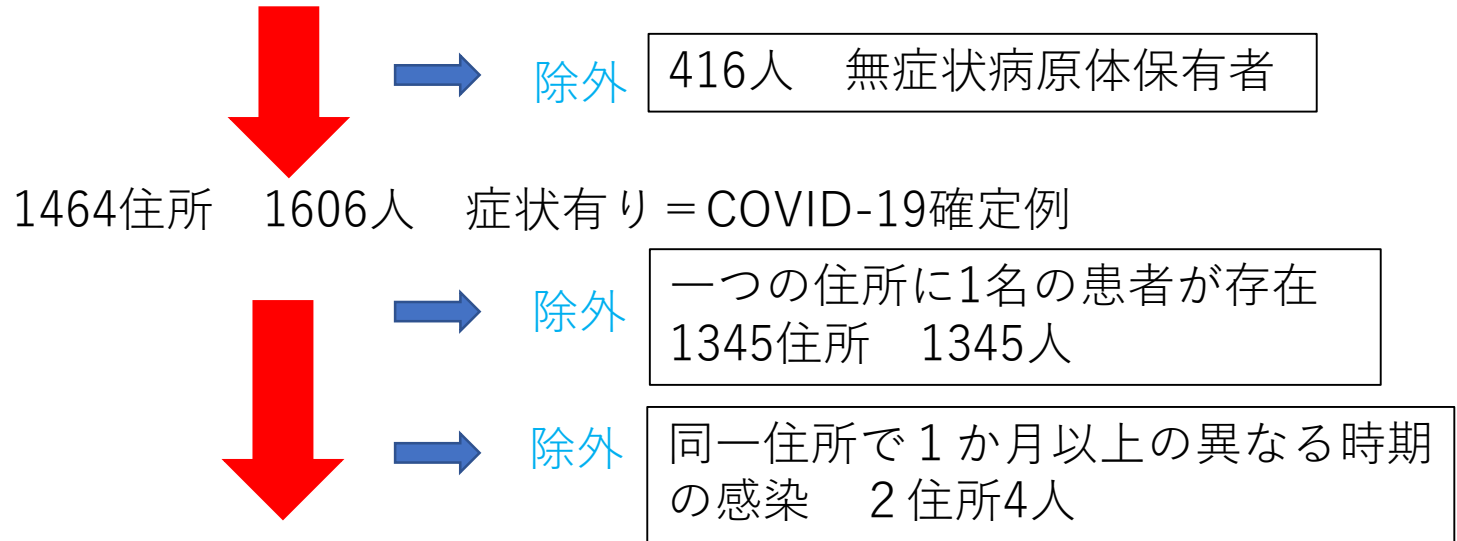
- 14日間の検疫は、身体的および精神的健康に影響を与える可能性のある個人的な負担を課すだけでなく、コンプライアンスを低下させる可能性のある経済的困難につながる可能性がある。
- 自宅待機は、毎日の健康観察の中で症状が把握されていない場合、期間を10日間で終了可能である。この戦略では、自宅待機終了後の感染リスクは約1%と推定される。
- 診断のための検査のリソースが十分に利用可能である場合、その検査の結果が陰性であり、毎日のモニタリング中に症状が報告されなかった場合、自宅待機は7日間で終了可能。この戦略では、自宅待機終了後に残る感染リスクは約5%と推定される。
 - 検査は、自宅待機中止の前48時間の検体で陰性が確認された場合。

本研究の目的

- 濃厚接触者の行動制限は、感染拡大防止策として重要であるが、その期間の合理性や妥当性については、**COVID-19**の潜伏期間、陽性者の就業制限、勧告入院期間、他国の対応など現状の知見をもとに、必要最小限にとどめることが重要であり、流行期の今、まさに再検討をする時期にきている。
- 積極的疫学調査における同居者感染事例の評価により、健康観察期間の妥当性を検討する

方法

港区みなと保健所が2020年4月1日～2020年11月30日の期間に、感染症法に基づき就業制限・入院勧告を行ったCOVID-19届出例 2022人



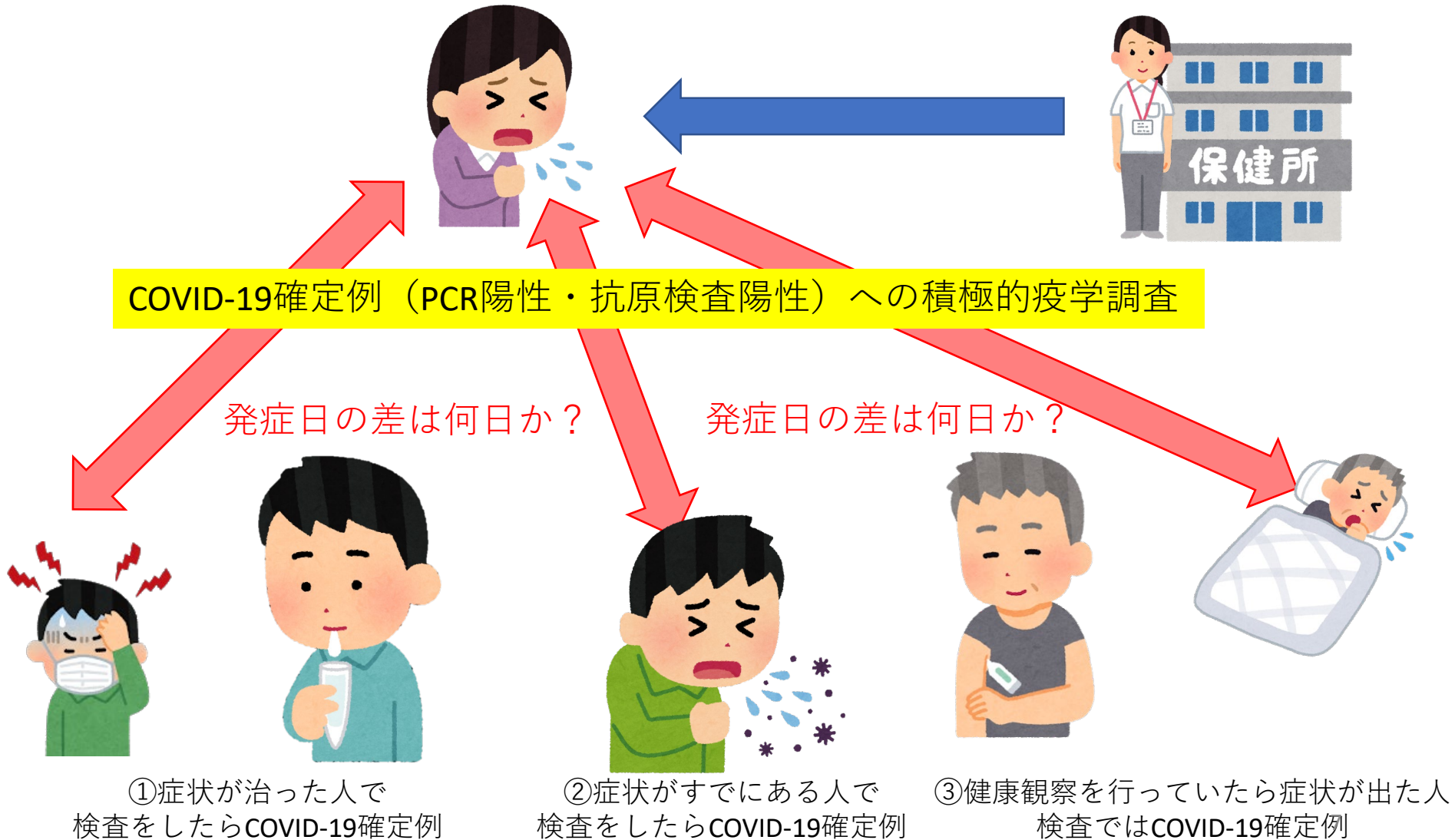
抽出された検討事例

1つの住所に2人以上患者が存在
保健所の積極的疫学調査により、

- ・同居家族
- ・同居人
- ・共有スペースで接触があるシェアハウスの住人 などであった。
= 以下 同居の患者とする

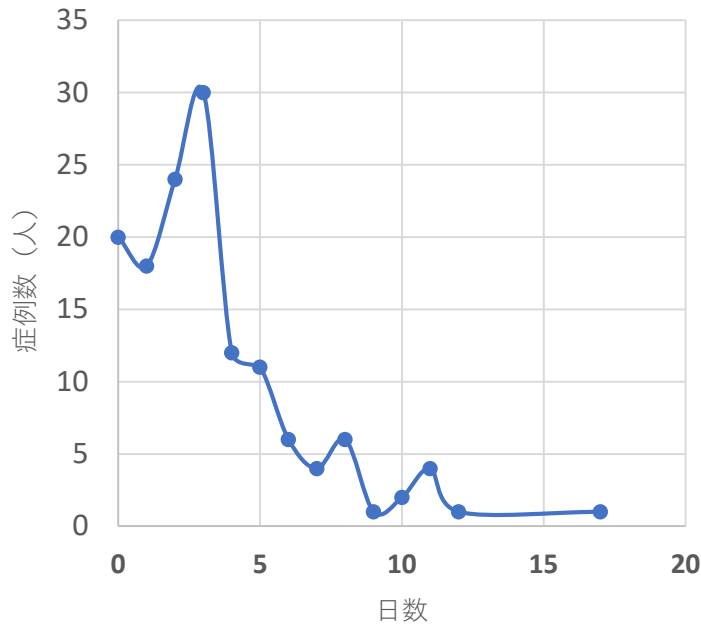
257人 (117住所) 117人の患者に140人の同居人患者がいた。

同居の患者間においての発症日の差は何日あるか？

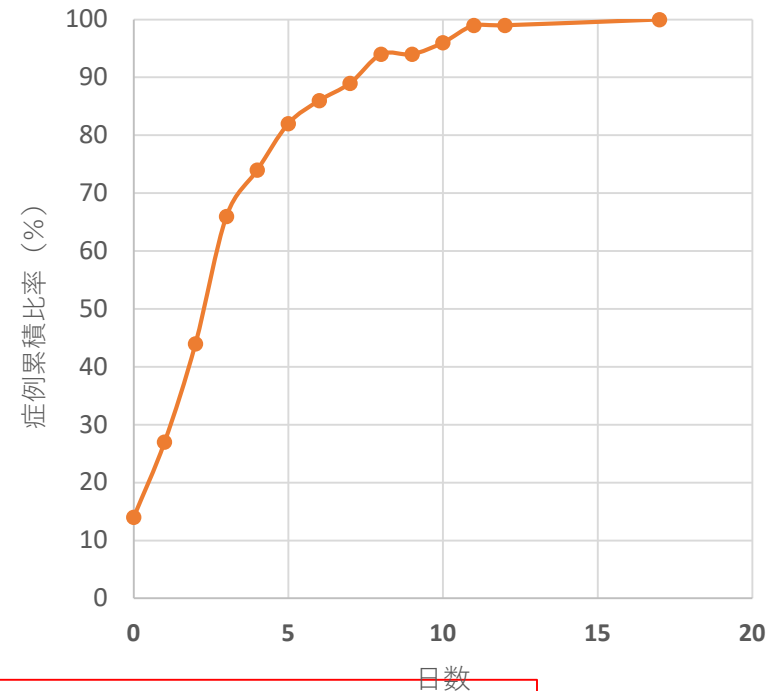


同居の患者間の発症日の差は何日あるか？

同居の患者間の
発症時期の差
(症例数)



同居の患者間の
発症時期の差
(累積比率)



最終的に発症した同居の患者 140人中

- 発症日の差が7日以内 125人 89.2%
- 発症日の差が10日以内 134人 95.7%
- 発症日の差が14日以内 139人 99.2%

結論

- CDCが提示した健康観察・行動制限期間の**10日間**において、最終的に発症した同居人の**95.7%**の発症を確認することができた。
- 濃厚接触者の健康観察期間が**14日間**から**7日**または**10日**に短縮できることが示唆された。